

The Digital SNOW FESTIVAL Press デジタル雪まつり新聞

この新聞はさっぽろ雪まつりを
速報するために特別に
作られた編集チームが
MacintoshのDTPで製作し、
雪像に写真撮影しており、
同時にインターネット上にPDF形式で
全く同じものを掲載します。

発行
デジタル雪まつり新聞
編集局
※ 札幌市立札幌星園高等学校
昼間部パソコン部内新聞局
道都大学短期大学部O A 研究部

ACE Hokkaido
教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

コンクール開催中

順調に進む雪像製作

四日から行われている国際雪像コンクールは、二日目に入っている。よ本格的な作業を迎えた。五日、出場各チームに雪像製作状況や札幌の印象について話を聞いた。

ノボシビルスク市チー

「私たちは今回六回目の参加となり、札幌の姉妹都市として招待されてきている。このAグループは過去に優勝したチームばかりで、レベルが高く、

韓国やインドネシア、香港などのチームがある。しかし、私たちのチームには氷彫刻の経験のあるコックがいる。彼らはすごく細やかな仕事ができるので、その技術を生かしたものを作る」のだと

いう。

製作する雪像は、プースキンの「ルスランとリウドミラ」を題材にしていて、人魚とサバカという犬とロシアの民族的なログハウスであるイズバが、魔法の森の中に

あるイメージだ。

細やかなところで芸術性を高めた雪像「ダイナミック&デリケート」この二つの様子をここで作り出そうというものである。

札幌はどうですか

札幌には今回で六回来ていますが、街が美しく非常に静かであり、大変気に入っている。

何か困ったことはありますか

私達が住んでいるところではマイナス四十度ととても寒いですが、札幌はそんなに低い温度ではないため、暖かくなると、雪像

が溶けるのではないかと危惧している。

タイチーム

どうして、日本のこんな寒いところの大会に出てみようと思われたのですか

タイでのこういった大会で、札幌雪まつりにも参加しないかという話があり、それがきっかけになった。

何か困ったことはありますか

日本は寒い。この一言のみです。

今後の意気込みは

自国には雪がないので雪と少しでも長く触れあっていたい。

インドネシアチーム

どういった関係の人たちですか

お子さまは
雪像より
バッジが目当て?



アメリカチームの雪像前で群がる子供たち

五日の午後、西十一丁目の国際雪像コンクール会場で、製作中の雪像の間を走りまわる小学生くらいの子供たちがいた。何をしているのかと見ていると「プリーズ・バッジ」と、各チームに次々と話しかけている。そのうち何チームかは用意してきたピンバッジを子供たちに着けてあげていた。その子供の一人に話を聞いてみると「僕一個もらった。あと今もらったのをこれからみんなに分けるんだ」と喜んでいて。大人たちは雪像を見るが、子供たちには雪像よりバッジといったところだろうか。

ている。

アメリカチームの雪像のテーマは。どういうところを見てほしいか

ホーム・スイート・ホーム(我が家に勝るものなし)。冷たい雪で暖かい(家の)雰囲気を表しているところを見てほしい。

札幌市民へのメッセージをお願いします

励ましの言葉をかけてくれたりしてどうもありがとう。小学校低学年くらいの子供と接して楽しかった。

アメリカチーム

雪像はどのくらい完成しましたか

六〇%完成した。雪像製作のペースはどうですか

昨年よりきちんとでき

国際雪像コンクールとは

国際雪像コンクールは、二月四日から七日までの定められた時間に、四名のメンバーで三メートル立方の四角い雪のブロックを削りだし、雪像を完成させ、それを競い合うイベントです。参加チームは年々増え続け、今年は二十の国や地域にもなっています。

参加チームは優勝の実績を持つAグループ(十五チーム)と、その他のBグループ(五チーム)

に分けられ、製作場所は噴水を挟んで東側がAグループ、西側がBグループになっています。

審査は七日にグループ別で行われますが、その際、芸術性、独創性、表現力、雪の素材を生かした技術力の四つの点に重きが置かれます。賞は、Aグループが優勝・準優勝・一位・二位・三位・努力賞・敢闘賞の七つで、Bグループが優勝・準優勝・努力賞・敢闘賞の四つです。



真剣な眼差しで製作に取り組むノボシビルスクチーム